

大館市農作物異常気象対策協議会

水管理と病害虫防除の徹底を!

七月中旬から八月上旬にかけての長雨や低温、日照不足による農作物への影響が深刻な事態となっていることから、八月九日に今年度初めての「大館市農作物異常気象対策協議会」を開催しました。協議会では、被害状況や今後の対策等について話し合い、農家への指導や情報伝達等を一層強化することにしました。

ついに4年連続の異常気象に

昭和六十三年七月の異常低温、平成元年・二年の暖冬少雪、連



8月20日の水稲障害不稔調査

続する異常気象は市の農業に大きな被害をもたらしました。そして今年も七月中旬以降の長雨低温に加え、日照不足。ついに四年連続の異常気象に見舞われました。

今年七月の平均気温は二一・四度、平年を〇・八度下回り、降水量では逆に平年よりも二一〇ミリ上回りました。また日照時間は、平年の約半分の八十・三時間(一日平均二・六時間)となっています。

低温と日照不足が幼穂形成期と出穂期に重なったことから、穂イモチの発生や障害不稔が懸念されています。さらに市場では、野菜等の収量減による入荷不足から価格が上昇。異常気象の影響が、すでに家庭の台所

にも及んでいます。

被害状況の把握に力を注ぐ

今年の水稲は田植え後に好天が続いたため活着が良く、六月に入ってから夜間の高温で生育は平年を上回るペースで進んでいました。しかし、七月中旬以降の異常気象で、イネの蓄積養分が少なくなり、穂数は作況指数九七だった昨年をさらに下回っています。また、減数分裂期の低温により、穂に白稈が発生しています。

一方、野菜や果樹は露地物を中心に全般的に生育停滞、品質低下、収量減など大きな影響が出ています。

今後は、作目別、品種別などにより、一層細かな被害調査に努め、状況を把握した上で会合を持ち、対策を協議することにしています。

被害の実態調査として、八月二十日に市農業総合指導センターが、水稲障害不稔調査を実施したところ、あきたこ

まちは総粒数六十八のうち稔実粒数が五十六、不稔粒数が十二、稔実歩合は八二%。キヨニシキは総粒数六十六のうち稔実粒数六十、不稔粒数は六、稔実歩合は九一%。異常気象による不稔はみられませんでしたが、また一穂着粒数は、あきたこまちで昨年をやや上回っていたとはいえ、平年よりはやや少なくなっています。

的確な情報を農家の皆さんへ

異常気象対策協議会では、作目ごとにその適正な技術指導にあたり、的確な情報を迅速に提供していくことにしています。情報は、農政推進員を通じて全農家に提供することにしています。

八月中旬からの好天により、異常気象による影響も若干やわらいできていますが、まだまだ予断を許さない状況です。適正な水管理と病害虫の防除を徹底して行う必要があります。作物のために細心の注意を払っていかねばなりません。

市長リポート



No.6

良質な水の確保

良質な水は、私たちが健康で潤いのある生活を維持していくために欠くことのできないものです。

しかし、いま大館には、残留農薬や家庭雑排水、その他有害物質の地下浸透による井戸水汚染、集落で運営する水道への土砂流入、上水道を引いても水圧が低い、ため瞬間湯沸かし器を使えないなど、生活用水に関する深刻な問題が出ています。

これらの問題は、市民の皆さんのご協力をいただきながら早急に解消していかねばなりません。健康で潤いのあるまちを築くため、市の責務として市民の皆さんに良質で豊富な、そして水圧の高い水をご使用いただけるよう、上水道の敷設範囲拡大や普及促進、水圧アップ、下水道の整備などに、より積極的に取り組んでいきたいと考えます。大きな事業ですが、何としても実現したいと思っております。市民の皆さんのご理解とご協力をお願いします。

小畑 元